

土壌物理学者が仕掛ける農業復興 農民による農民のための農地除染

まずは震災により原子力発電所からの放射線が漏れ農地に大きな影響が及ぼされたのは大学でもいつらか聞いたことがあります。今回の記事では放射線を含む土を取り除く除染のお話です。国が進める除去方法は土を多く刈り取り処分場に廃棄する方法でした。溝口先生らはセシウムの性質を利用して水の浸透と蒸発を利用して地表面に集め、土を被せるというものでした。性質として知らなかったから納得させるなためだったとはいえ国の進めたことは一時的なもので、防除の方法としては課題点が多いと思いました。地域としては防除がしっかりできれば農家としても育てた作物が放射線を含まない安全な作物が作られると思っと思っています。現に噂として広まり数年間は福島産の作物が売れない時期がありました。人が住めないくらい危険な場所で作ったものなんて、、と考える人もいたと思います。飯田ブランドを作り上げたいと仰っていて中々に面白い復興方法だと思います。お話の中で大久保金一さんという方とのお話がありました。その中で若い人たちにも代々土を耕してきたことを覚えて欲しいということで何気なく農地が広がる中でも代々家族で作り上げてきたものだということを再確認されました。

聞いてみようあなたの知らない土の世界 放射性セシウムとの関係

こちらの記事は食の安全研究センターによるサイエンスカフェの中でのお話です。こちらでは土もそのものの説明からセシウムの除染についてよりわかりやすい説明がなされていました。原子力発電そのものは近未来を代表する技術進歩の一つだと思います。化石燃料を使わないエコであ大量の電力を作る発電方法でエネルギー問題を解決できると思っていたかもしれません。震災が起こったのは自分が6歳の時だったのでその考えは亡きものでした。科学技術の使い方、危険性や管理方法、リスクケアを含めどうなのか。メリットだけに焦点がないのか、地域はどう思うのかなど原発の事故を皮切りに自分も考えるようになり国の進めることも不思議と信用が薄くなりました。さてセシウムの除染についてはセシウムがほ陽イオン交換がされない性質であったり、コメにカリウムの代わりにセシウムが吸われる、ぬかに集まるから精米するとほとんど取れるなど知らない性質が多くありました。これらを通して現場でのことを現場でなんとかする現場主義でも太刀打ちできないこともあることに気付きました。農家の方にとってはそんなの信じられるかということだったと思います。しかし知識を知った上で正しく伝えることで今回のように地元の方が納得できる、協力できる関係に至ったのは、さ勉強してきた自分にとっても励みになりました。